

令和6年度学校評価シート（自己評価）

かびら幼稚園

令和7年3月

1、園の教育目標

真実の人生を精一杯生き抜こうという仏教精神に基づき、「心と体の健康づくり」をモットーに楽しい集団生活を通して、社会性を身に着け、調和のとれた人格形成を目指す。 教育目標 1. 素直なこども（無心に手を合わせる気持ちを大切に） 2. 心の暖かいこども（お互いを認め合う。喜びも悲しみも共にする。自然に親しみ、感動する心 3. 意欲のあるこども（初めてのことに挑戦する。自分に勝つ。正しい勇気を発揮する。）

2、具体的な目標や計画

・創立以来、全園児を全職員で保育、教育を行い、園児を中心に教職員と父母、地域のボランティアの力もお借りし、本当の意味での教育的な環境を作り上げ、園児たちを育ててきたかびら幼稚園を、現在の社会の変化に対応し、保護者のニーズに応え、そして何よりも子ども達にとって必要なものを与えることができる幼稚園に進化させるための取り組みを引き続き推し進めていく。 ・平成31年4月より幼稚園型認定こども園の認定を受け、両親が共働きであってもかびら幼稚園の教育を望む家庭の園児を受け入れる仕組みは整ったため、教育面でのさらなる充実と環境面での安全性を高めていく。 ・コロナ禍を経て、新たな園生活を形にしていこう一年間となる。様々な行事や活動の意義、目的を確認し、現在の園児達に適した形で行うことを意識し、必要な変更も行いながら実践する。また、コロナ禍の中で行った試みで良かったものについては、それを取り入れていく。 ・園生活において ICT 化をさらに進め、園生活の安全性、保護者の利便性、そして、教職員の働き方改革と働きやすい環境整備をすすめていく。毎月の避難訓練を通して防災意識を高め、危機管理に取り組んでいく。 ・本園舎の屋根・壁を中心に大規模修繕を行い、園舎の状態を確認し、今後も長く使えるように修理等を行い、園児達が安全で快適に過ごすことができる保育教育環境を整えていく。
--

3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果(※)	取り組み状況
ポストコロナ後の園行事及び活動の再構築、並びに園児の活動量と運動機能強化を意識した取り組みの実施	B	・運動会は、昨年度に引き続き、全学年で園庭にて実施、観覧人数の制限は設けず、暑さ対策や園児・保護者の負担軽減のため午前開催とした。各学年、親子遊戯や競技を復活し、親子でのふれあいの機会も設けた。 ・朝のラジオ体操、ジョギングを継続し、体力づくりに務めた。また、安田式遊具の普段からの更なる活用に努め、運動会で日々の成果を鉄棒、マット、跳び箱、雲梯、平均台等を使ったサーキットとして披露した。園児一人一人、個別の目標を定めて挑戦する良い機会となった。 ・リズムあそび会は、年少、年中、年長合同で2月に行った。今年度、はじめて坂戸文化会館にて行った。設備の整ったホールでの開催となり、概ね良い形で行うことができた。実施方法については、初めての施設でもあり、新たな試みもあり、次年度以降は、今年度を踏まえ、工夫をしていく。一年前に会場の予約ができるようになったことは、計画を進める上で大変有難い。
情報発信力の強化とICT利用の推進	C	・HPのブログによる園生活報告をこまめに行い、園の様子をよく伝えることができた。ブログ更新を各学年の担任が行い、学年ごとの活用をよりきめ細やかに伝えた。紙媒体でのクラス毎に発行していた通信を各学年の報告をまとめたかびらだよりの発行に切り替え、園全体の様子を伝えるものとした。Instagramでの情報発信も行ったが、来年度は、より一層活用できるようにしていきたい。 ・一斉配信メールを活用し、台風や雪の時の対応など迅速に情報発信を行った。ICTシステムによる出欠申請や登降園管理も定着し、保護者並びに園側の利便性に繋がっている。各クラスのiPadを用意し、担任がICTアプリを利用して、出欠、預かり保育の利用や保護者からの連絡を職員同士で共有することで連絡ミスがへり、対応の質の向上にも繋がった。試験的に紙媒体で配布しているおたより類をICTアプリにて配信も行った。来年度は、おたより類のペーパーレス化を進めていきたい。
園内環境の整備・充実・活用（安全面の施設強化）	B	・降ろし忘れ防止装置設置後も園バス降車後の車内点検の複数名にて実施を継続。二酸化炭素モニター、空気清浄・除菌装置し、保育室内の環境整備管理に引き続き活用。 ・熱中症対策として園庭砂場に日陰棚（屋根が透明なカーポート）を設置。夏場は、遮光ネットを張り、砂場が日陰になるようにした。 ・保育室内のアップライトピアノに転倒防止のためのガードを設置。

保育・教育の質の向上のための取り組み	C	・専門家による歌唱指導研修を春休みに受講する予定。毎月の音楽指導について研修を実施しているが、歌唱指導は、これまで機会がなかったため有意義なものとしたい。 ・より良い保育教育実践のため、キャリアアップ研修受講を促進、不適切保育に関する研修受講、マネジメント研修、発達支援にかかわる勉強会等を実施。 ・様々な状況を想定しての避難訓練を行い、それぞれの状況下での課題をみつけ、教職員で話し合う。
未就園児教室と園開放子育て支援の充実	B	コロナ禍の中、見合わせていた園庭開放等の未就園児親子向けの活動を昨年度から再開したが、今年度も引き続き行うことで、徐々に活動の認知度が近隣の対象家庭に広まってきた感触は得られた。人数が一気に増えたわけではないが、リポートに参加してくれたり、知り合いを誘って来てくれるケースもでてきて、手応えを感じられた。子育てについての相談を気軽にできる場としても、地域の子育て世代の一助になれるよう努めていきたい。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報活動の主体としてHPやSNSを上手く活用し、情報を更新していく。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・園生活内でのICTの活用、出欠連絡においては、園教職員も保護者も利用することに慣れて、活用することでの園業務の効率化、また保護者への利便性向上に繋がっていると思われる。今後も園でのICTの積極的な活用をすすめ、園児の安全担保や保育内容の充実に繋がる業務の効率化に努めていく。 ・組織としてより一層課題意識を持って取り組みたい目標については、来年度引き続き取り組んでいく。 ・ポストコロナでの新たな園行事や活動を形作った一年。以前の園生活の中で行事や参観などでの親子の触れ合いの機会も大事にしていたが、コロナ禍で多くが制限をする形になっていた。今年度、園行事や活動の中で親子のふれあいの機会を復活したことは、意義深く、今後も続けていきたい。認定こども園として保育園的機能も充実していく中で両親ととも就労されている家庭も多くなっているが、幼児期の親子のかかわり、ふれあいは、重要であり、園生活の中に親子で一緒に何かに取り組み、楽しむ機会を作っていく。 ・体力作りについては、日々の積み重ねで培っていくものでもあるので、引き続き朝のラジオ体操やジョギングを行い、また、園庭や自然観察園にて思い切り体を動かす楽しさを満喫できるようにしたい。安田式遊具の日々の活動での活用と運動会での種目に取り入れることで、ふだんの園での取り組みを発表できることは良かった。クラス、学年の仲間と協力して作り上げる鼓笛隊やパルーンの種目とともに、園児それぞれが鉄棒や雲梯で何をどこまで頑張るか目標を設定し、それに向けて頑張ることで意欲的になる姿があり、担任や他の教職員が一人一人に向き合う機会ともなった。集団としてのダイナミズムを活かすとともに、いかに園児一人一人に意識を向けていくことができるかをこれからも保育の課題としていく必要があると考える。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
ICT化の推進と情報発信の強化	現在、利用しているICTアプリの活用を進めていく。ペーパーレス化を進める中で、保護者の利便性をたかめ、業務の効率化につなげて、ひいては、保育の質の向上に寄与するよう努める。 園開放や未就園児向けイベント等をおして、多くの親子にかびら幼稚園を知ってもらう機会とするとともに、子育てについての相談を気軽にできる場としても地域の子育て世代の一助になれるよう努める。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報活動の主体としてHPやSNSを上手く活用し、情報を更新していく。
安全管理	引き続き、通園バスの安全な運航管理につとめる。また、安全な園内の環境整備を行うための点検等について見直しを行う。園周辺道路及び園駐車場内での危険行為防止の啓蒙、注意喚起を繰り返して行っていく。様々な状況を想定しての避難訓練を行っていく。計画作成にあたり、想定する状況下での課題、園児の動き、教職員の動き等を踏まえた内容にし、実施後、振り返りを行う。
保育・教育の質の向上のための取り組み	定期的な保育の振り返りや研修を通して、不適切保育や虐待等に対する勉強を継続し、教職員間で不適切保育等に対する認識を共有し、それらに繋がるような行為を未然に防ぐことに努める。小学校への接続を意識した教育カリキュラムの工夫と実践のため地域の小学校との連携をより深めていく。園の活動や行事、教育内容についての意義、意図への理解を深め合う機会を設けるとともに、働き方改革を進める中で教職員のモチベーションを向上させ、保育の質の向上に繋げる。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	ある程度、達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが十分でない